



H29-12号

H29.10.24
文責 橋田 清

全国学力・学習状況調査から ~その2~

城南中生は...

○プラスのポイント

- ・学校のきまりを守っている。(ほぼ10割)
- ・自分によいところがあり、将来の夢や目標を持っている。(8割近く)
- ・学校に行くのは楽しいと思っている。(8割以上)
- ・読書が好きである。(8割程度)
- ・人の役に立ちたいと思っている。(9割以上)
- ・人が困っているときには、進んで助ける。(9割程度)

●マイナスのポイント

- ・テレビやビデオなどを見る時間が多い。
- ・TVゲームやメールやインターネットの時間が多い。
- ・新聞を読む生徒が少ない。
- ・全国の中学生と比べると、授業でその時間の学習の目標(めあて・ねらい)とまとめをノートに書いていない。

以上の城南中生の実態を踏まえ、授業の改善や生徒指導に生かしていきたいと思えます。今後の具体的な取り組みについては職員会議や校内研で話し合い、実践していきたいと思えます。



国語

具体的なプラスのポイント

- 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力が身につけている。
- 「国語B：主として活用」の発展的内容の正答率が高い。
- 「文脈に即して漢字を正しく読む・書く」力が身につけている。

具体的なマイナスのポイント

- 「古文と現代訳語とを対応させて内容を捉える」

力が不足している。

- 「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」力が不足している。
- 「国語A：主として知識」の主として文法事項における基礎的な内容があまり身につけていない。

具体的な対策

◇古文について興味・関心を高め、内容を捉えられるように古語の意味を学ぶ学習の場を多く設定する。

◇読書指導において、本を読むだけではなく、その本から読み取ったことを文章にする機会を設ける。また、さまざまなジャンルの文章に触れる機会を意図的に設ける。

◇基礎的学力の定着のために、家庭で学習できる宿題の題材として、漢字以外の言語事項の課題を多く取り入れる。



研究授業 社会



数学

具体的なプラスのポイント

- 図形の移動について理解し、対称性を的確に捉えることができる。
- 見取り図から、長さの関係を読み取ることができる。
- 与えられたグラフや表から必要な情報を的確に読みとることができる。
- 筋道をたてて証明することができる。

具体的なマイナスのポイント

- 「資料の活用」の分野において知識はあるが、活用が苦手である。
- 「数量の関係を文字を使って表す」正答率が低い。

具体的な対策

◇「資料の活用」の分野は教育改定の改正により、今後学習内容も変わり、より活用ができることが求められてくる。基礎的な知識が実生活に結びつくような問題解決学習に取り組む。

◇問題文が長い問いに対して抵抗感があるため、取り組んでいない生徒もいる。読み、理解することを授業の中でも意識して取り組む。

学習面



具体的なプラスのポイント

- 国語の勉強が大切だと思っている生徒が8割5部以上いる。
- 数学の勉強が大切だと思っている生徒が8割強いる。

具体的なマイナスのポイント

- 教師はその時間の授業の目標(めあて・ねらい)を示したつもりでも、生徒にとっては、目標(めあて・ねらい)やまとめが明らかにされていない。

具体的な対策

- ◇授業では、目標(めあて・ねらい)を板書し、ノートに書かせる。
- ◇この時間にどんなことを学習したのかまとめの時間で振り返る。
- ◇家庭学習が計画的に習慣となるように取り組ませる。

生活面



具体的なプラスのポイント

- 8割近くの生徒は、自分によいところがあり、将来の夢や目標を持っている。
- 8割以上の生徒が学校に行くのは楽しいと思っている。
- 9割強の生徒は、学級みんなで協力して何かを成し遂げ、うれしかった体験がある。
- ほとんどの生徒が人の役に立ちたいと思っている。

具体的な対策

- ◇学校生活の中で、自己有用感や自己肯定感を味わう場面を意図的に作っていく。
- ◇授業はもちろんだが、行事での一人一人のがんばりを「認め、褒め、励ます」姿勢を続ける。
- ◇本校の特色の一つである福祉教育をさらに推進する。

具体的なマイナスのポイント

- テレビやビデオなどを見る時間が多い。
- TVゲームやメールやインターネットの時間が多い。
- 新聞を読む生徒が少ない。

具体的な対策

- ◇ネットや携帯、スマホについて、依存性や危険性について学習会や指導を定期的に行う。
- ◇朝の会や授業など時事的な問題を取り上げ、新聞を読むことを奨励する。